はじめに

このガイドブックは、保護者の方に、こどもの急な病気やけがの対処方法などをお示しし、症状をしっかり把握し、あわてずに落ち着いて対応していただくことを目的に作成されました。

休日や夜間の小児救急医療現場では、時間外に受診する軽症の患者さんが増えることで多忙と混乱が生じています。救急病院に軽症の患者さんが集中することで、本当に重症な患者さんへの対応が遅れるおそれが生じたり、過重な負担のために小児科医の病院離れが進むなど様々な問題が出てきています。

保護者の方には、このガイドブックを利用し、いざというとき、こどもたちが安心して医療が受けられる小児救急医療体制が維持・確保されますよう、御協力をお願いいたします。

このガイドブックは、生後1か月から6歳くらいまでのお子さんを想定して作成しています。
なお、このガイドブックに示した内容は、あくまでもひとつの目安であるということを理解したうえで御利用ください。

目次

急病のときの対応

- 38.0℃以上の発熱…… 3
- おう吐 …… 5
- げり …… 7
- 腹痛 …… 9
- けいれん・ふるえ …… 11
- せき（ゼェゼェする） …… 13
- 耳の痛み …… 15

ケガのときの対応

- 頭を打った …… 17
- 鼻血 …… 19

事故のときの対応

- 誤飲 …… 21
  （変なものを飲み込んだ）
- やけど …… 23

こどもの事故の防ぎ方 …… 25

上手なお医者さんのかかり方 …… 27

いざというときのお役立ち連絡先

- 埼玉県救急電話相談 …… 29
- 埼玉県AI救急相談 …… 29
- 中毒110番・電話サービス …… 30
- 「こどもの救急」日本小児科学会サイト …… 30
- 全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」） …… 30